

アルコールランプの扱い方

事故を起こさないために

1

使用する前の点検

- ふたは、すり合わせがよく、ぴったりと合っているか。
- 口が欠けていないか。欠けていれば取り替える。
- 上に出ているしんの長さは、5mm くらいあるか。
- 本体のガラスにひびが入っていないか。入っていれば使用しない。
- アルコールは、8分目まで入っているか。入っていなければ補充する。
⇒ 少ないと引火する。
⇒ アルコールを補充するときは、必ず火を消す。
⇒ 補充にはロートを使うとよい。児童にはさせない。
- しんは、きつすぎず、ゆるすぎないか。
- しんの長さはじゅうぶんか（底についているのがよい）。
- 金属製のアルコールランプ（パイトーチ）も利用されている。安全性が高く、破損しにくく、引火することもない。

関連単元

- みんなで使う理科室
- 7. ものの温度と体積
- 8. もののあたためり方
- 9. 水のすがた
- 6. もののとけ方（5年）
- 1. ものが燃えるとき（6年）
- 2. 植物のつくりとはたらき（6年）
- 5. 水よう液の性質（6年）

4
年

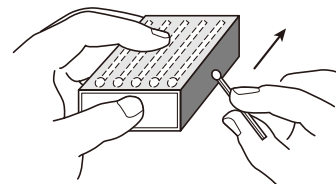
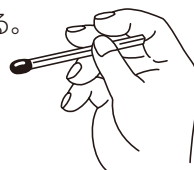
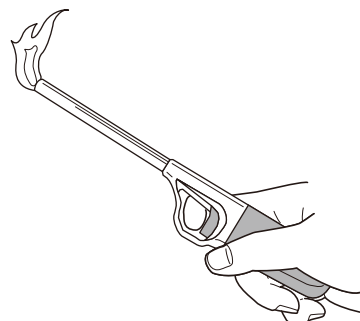
2

その他の事故防止の留意点

- 燃えやすいものは机の上に置かない。
- むれぞうきん・砂・毛布・消火器等を用意しておく。
- もらい火は絶対にしない。
- 火を吹き消さない。
- 本やノートなど燃えやすいものを台にして使わない。
- ガスライターはロック式のものを使用する。
- ガスライターが安全で簡単に着火できるが、
かわりにマッチを使う場合、以下に気をつける。

〈マッチの安全な使い方〉

- マッチは1本ずつ取り出して、そのつど箱をきちんと閉じる。
- 軸木の端を親指と人差し指、中指で持つ。
⇒ マッチをする方向に人のいないことを確かめる。
- 中のマッチの薬頭が手前にくるように小箱を持ち、
手前から向こうに向けて、薬頭をすりつける。
- 折れたマッチや使ったマッチは、必ず燃えがら入れに入れる。
- マッチを教室外へ持ち出させない。



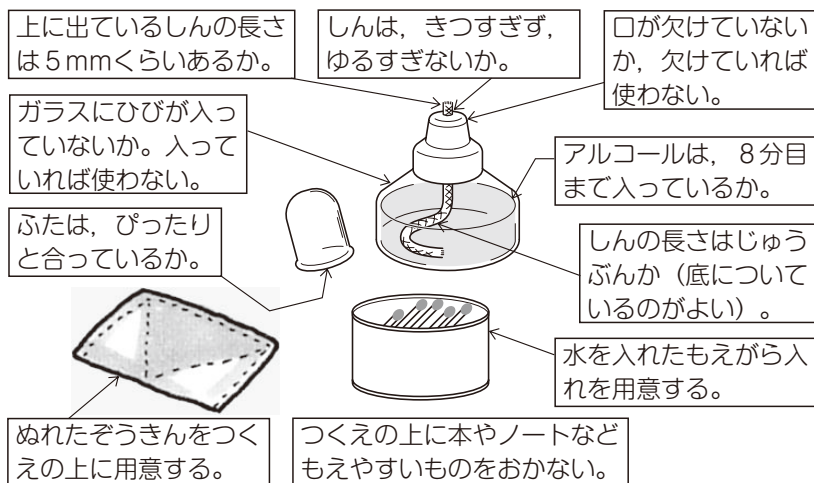
もしものときには

- ① こぼれたアルコールに引火したときは、あわてて消そうとして火をたたいたり、振り払ったりしてはいけません。
⇒ 火のついたアルコールが飛び散り、燃えやすいものや児童の衣服に飛び火すると大変である。
- ② 落ちていて、むれぞうきんや毛布をそっとかけ、空気を遮断する。

アルコールランプのあつかい方

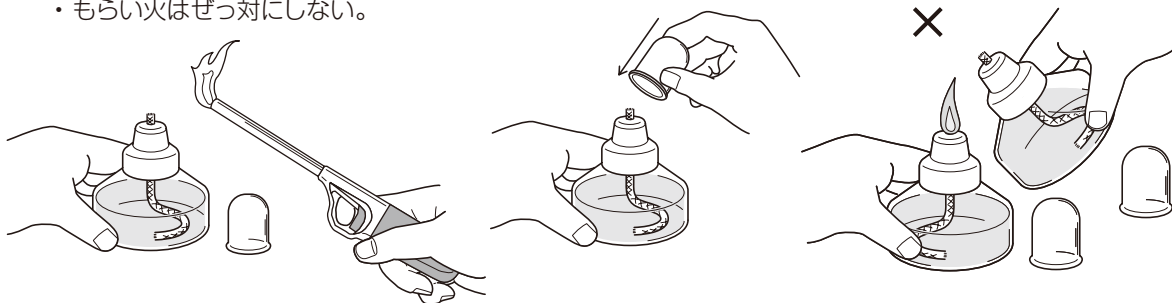
● 安全に使うために

1 使う前の点検とじゅんぴ



2 火のつけ方と消し方

- ・ マッチの火を横から近づけ、ななめ上の方向に動かして点火する。（しんには、ふれないようにする。）
- ・ 消すときは、ふたをななめ上からすばやくかぶせる。
- ・ もらい火はぜっ対にしない。



3 その他安全のために気をつけること

- ・ 本、ノート、筆ばこなどのもえやすいものを火のついたアルコールランプの台にしない。
- ・ 直しゃ日光の当たる場所で使ったり、置いたりしない。
- ・ 火を消すときは、ふき消さない。

